

タイ国国歌：プレーン・プラテート・タイ

タイ国はタイ民族の血肉の集合体で国家を形成している。

タイ国は全て健全な状態にある、それはタイ国民が皆愛し合い助け合うことを希求しているからである。

タイ国は静けさを好む、戦争は好まない。だがもし戦争になったならば決して恐れな
い、誰にも侵略させない。血の最後の一滴まで国家の犠牲として捧げることができる
そうしてタイ国国家を繁栄させて行こう、勝利者として 万歳！

*1939年、国名の変更に伴い、作詞コンテストにより採用されたもの。ルアン・サーラヌプ^ララハ^ン「コンタッ
プ」(陸軍部隊)。作曲は1932年にプラ・チェント^クリヤンが作曲していたもの。

国旗

1917年ラーマ6世により制定。赤、白、青、白、赤五本の横段の三色旗。各段の幅
の割合は1:1:2:1:1。青は国王(王制)、白は宗教(仏教)の崇高さを表し、赤は民
族の団結、即ち王制と仏教の尊厳を守るために流す民族の血を示している。

以前は赤地に白象を染め抜いたものであったが、1916年洪水被災地を国王が巡視中、
目の前で国旗が逆さまに掲げられるという不祥事が発生、上下左右同じ図柄の国旗に
変更することになった。

国花

ラーチャブルック(GOLDEN SHOWER)

1. 概論

1. 「タイ国概説」吉川利治・大阪外語大タイ語研究室 1966 国ア
タイの自然、民族、歴史、政治、経済、産業、文化、社会等にわたる基本的な知識が
得られる。
2. 「タイ族—その社会と文化」綾部恒雄・弘文堂¥1800 1971 354+11p
1964年以降の著者の論文集。タイ族研究16年の成果。タイ族の歴史・文化的背景、
タイの王制と世界観、旧制度下タイの身分制度と人間形成、タイ国村落社会の構造、家
族タイ人の生活と宗教、タイ国社会における性と年齢の原理について論じる。
タイ国社会の弛緩性が水稲耕作、移住民的性格、借用文化から来るとしている。
3. 「タイ—その生活と文化」星田晋五・学研¥2400 1972
タイ語・歴史・政治・ラームキエン・宗教・地理・生活風俗を紹介。仏教の戒律227
条(と言っても、皮肉な言い方はしないとか、村を歩いている時には左右を見ないだの腕
を振らない、靴をはいたままの者に仏道を説かない等、細部にわたり良識があれば問題な
い)、修行、葬儀の記述が興味深い。
*ラームキエンの各画面は、タイ仏教の総本山プラシー・ラタ・サタラム寺院(ワット・プラオ)の廻廊の壁に漆
喰塗の上に極彩色で金箔を押した壁画となっている。125p
4. 「タイ国—ひとつの稲作社会」石井米雄偏・創文社¥5500 1975
現地調査体験を持つ12人の研究者による論文集。自然科学・社会科学の両方の視点
から種々の仮説と問題提起を行っており、「現代アジア論の名著」(中公新書)でも
取りあげられている。
・「稲作国家」の政治構造・・・矢野暢
*サットがバンコクのサムロー(三輪人力車)を廃止した理由の一端には、一般民衆は田舎で農業に
従事し、そこで住むところを持ち、食うに困らないことが最も望ましいという判断があ
った。141p
・稲作社会と国民統合：カレン族の平地民化に見る一事例・・・飯島茂
5. 「タイのこころ」ククリット・プラモート：チット・プーミサックめこん
¥1300 1975 GE561, 9 国
収録作品：ククリット・プラモート
1 「現代生活と仏教(講演録)」1972の一部
2 「タイ文化の基盤—歴史・社会・政治の基盤」1973からの抜粋
：チット・プーミサック
1 「拝啓、封建貴族の皆様」、詩「米の詩」1974の一部
2 「タイ・サクディー・ナーの素顔」1974の部分訳
片や体制側でブン・クン(恩恵)思想を擁護し、タイ社会のメカニズムを維持しよう
とし、片や反体制側で伝統的思想に挑戦、タイ社会のメカニズムを否定する。その社会
とは、チャオ・ナーイの社会、即ちサクディー・ナー〔位田制〕社会における高級貴族

官吏の社会であった。編訳者は両極の意見を提示して問題を投げ掛けているが、現代はどう変化しているだろうか？

6. 「文化誌・世界の国 東南アジア I」講談社 ¥2000 1975
 - ・タイ：混合文化と王家の歴史 59-86p
 - 王家の歴史
 - 国民統合の絆—仏教
 - タイ民族と山地民族
 - 六昆王山田長政の謎
 - ・旅のガイド：タイ 202-206p
7. 「タイ事情」中村孝志編・天理教東南アジア研究室 1975 国ア
天理教東南アジア伝道懇談会でのタイ国関係の講演及び日・タイ交渉史稿と「タイ国の華字新聞業界」の翻訳を収録。
8. 「タイ—その変動の中で」河部利夫・泰流社 ¥980 1977
1970年代のタイ学生運動、クーデターの中から東南アジアの動向をさぐる。
9. 「タイ—その国土と人々」パイトゥーン・ボンサブット帝国書院 ¥1500 1978
世界の地理教科書シリーズ 12。後期中等教育課程 4 年(17 歳)を対象としたタイ国地誌教科書で、77 年に出版された。自然的条件、人々、産業を順を追って記述している。最後にタイの教育事情を解説している。
10. 「ミリオーネ全世界事典・アジア III」学習研究社 1980
イタリア・AGOSTINI 出版社「IL MILIONE」を底本として日本人向けに編集したもの。
 - ・タイ 38-94p
11. 「新タイ事情上・下」田中忠治・日中出版各 ¥1800 1981
上巻でタイ社会の論理を明らかにし、下巻で政治経済の事件を分析している。
12. 「もっと知りたいタイ」綾部恒雄・永積昭編・弘文堂 ¥1800 1982
「もっと知りたい東南アジア」シリーズの第一巻で以下の項目について解説。
歴史的背景(石井米雄) 風土と地理(北原淳) 民族と言語(綾部恒雄)
宗教と世界観(小野沢正喜) 芸術と文学(森幹男) 社会と教育(村田翼夫他)
政治と経済(赤木功・末廣昭) 日本との交流(吉川利治)
13. 「タイ王国」外務省アジア局南東アジア第一課編・日本国際問題研究所 ¥845 1983 国 GE561, 32
新書版でコンパクトにまとめている。
14. 「躍進するタイ国」小泉康一・日本タイ協会 1983
著者は、東外語大海外事情研究員。1979-81 年南タイで難民救済に従事。当時のタイの現状を国土・民族・歴史・社会・文化の面から紹介している。
15. 「世界の国シリーズ 14 東南アジア」講談社 ¥1980 1983
国王と仏教の国タイ：田中忠治 154-158p
*タイ国民にとっての善き行為 158p
 1. メッター(慈悲)
 2. カルナー(困っている部下、目下の者を助けようとする気持ち)
 3. ムティター(他者の喜び悲しみに自分も喜び悲しむ)
 4. ウベークカー(身の程を弁える)
16. 「タイ」安田靖・中公新書 ¥560 1988 219p ○
1976-79, 1982-85 年に駐在した経験をベースに、近代化へ変貌する白象(高貴の象徴)の国の経済社会論。経済企画庁エコノミストの目は経済開発に熱心な現国王にも向けられている。終わりに日・タイ社会・経済関係年表を掲載している。印税収入はタマダー基金として使われている。
 - *自然が与えた豊かさは国民に自由の意識と微笑みを与えた。5p
 - *タイの洪水は「あふれる」であり、..土地を肥沃にし、農民に恵みをもたらす。7p
 - *ヒンズーは厳重な階級意識を持ち、支配者に有利な宗教。仏教は庶民に「業」や諦観などの

観念を植えつけた。43p

*日本の仏教は来世への願望を中心に考えるものであるが、タイの人々にとっての仏教は現世での利益の実現を願うためのものである。55p

*国王との握手:シキット・ダム竣工式。日本からの円借款も出されていたダムでもあり、日本大使の名代として出席。62p~

*現国王に対するイ-ジは英明であり、不満を汲み取ろうとくださる方。国王こそがタイであり、国王の示す方向に道があるという信念を持っている。71-2p

17. 「日タイ比較文化考」岩城雄次郎・勁草書房¥2000 1988 235p ○

チュラロンコン大で日本語を教えながらタイ文学を研究していた著者が、タイ人と日本人の共通点と相違点について日常生活に根ざした視点から分析し、「バンコク通信」に連載したもの。日本人のタイ人観、タイ人の日本人観についてのアンケート調査をはじめ、比較文化のデータが満載されている。

・タイ人の気質と価値判断:スパットラー・スパーブ 1-13p

1. 国王を尊敬する。2. 仏教の信奉。3. 金銭への信仰。4. 権力崇拜。5. 支配者や位階への憧憬。6. 年長者への尊敬。7. 一族郎党の結束。8. 恩を知り、恩に報いる。9. 有識者への尊敬。10. 寛大で気前がよい。11. 自由を好む。12. 人の機嫌を損じることを行わない。13. 時間は厳守しない。14. 明日でもいいことは今日行わないこと。15. 簡単に人を許す。16. 常に微笑。(友情から、どう反応すべきかわからないため、殺すため、戦うため、きまり悪さ、願い事への微笑など)17. 贅沢品を好む。18. 未知数のものには敢えて危険を冒さない。19. 射幸心が強い。20. 愉快地に働き、日常生活を楽しむ。21. 熱意に欠ける。22. 安楽を好む。23. 儀式や催しを好む。24. 迷信にとらわれ、縁起をかつぐ。25. 規律を厳格に守らない。26. 好奇心が強い。27. 自分勝手。28. 宣伝を好む。29. 無償配布物やおまけを好む。30. 忘れっぽい。31. 時間とは無関係に食べる。32. 親しい人を自分の親戚のように看做したがる。33. 抽象的な理想よりも尊敬すべき人物に動かされる。34. 礼儀を守る。35. 自分より優れた人物の存在を認めない。36. 駆け引きを好む。

*タイの女性は男性に頼ることなく自分の仕事は自分でやり、もし他者とのトラブルがあれば、自分でそれに対処しなければならない。70p

*タイ人は入念に装飾したものや清潔なもの、誰が見ても美しいと思えるようなものを作るべく人の目に触れるようにする。75-6p

*諺「大人(ブ-ヤイ)は静かに話し、小人(ブ-ノイ)は大声で話す」79p

*タイ人がいったん人を愛し始めるとまるで熱狂者のようではあるが、それが冷めてしまった場合は、まるで手の平を返したようになる。87p

*日本とタイは、相手の言うことが分からないと即座に「ノ」と言ってしまう欧米人のメンタリティとは明らかに違ったものがある。よく、ヨーロッパやアラブ諸国などへ行った帰りにバンコクへ立ち寄った日本人が「ああ、ここへ来てほっとしましたよ。何故か親しみ易い、人間らしい人間のいる国に来たような気がします」などと言うのを何度か耳にしたことがある。109p

18. 「タイ入門」田中忠治・日中出版¥1800 1989

前記#10 新タイ事情上・下巻」に年表を加えたもの。

19. 「タイ国理解のキーワード」河部利夫・勁草書房¥2060 1989

地域研究の専門家がタイ社会・文化を中心に「タイの心」が共感出来るようエッセイ風に書いている。索引が役立つ。

*人間は理解を共にするという事は、相互に相手の心にわが心を投入し通じ合うことが出来るようにすること

*「ちょっと待ってね」チョ-ツ: 生まれ マ-: 来い ティ-: こっちに
「涙(ナム・タ-)」ナム: 水 タ-: 目 11p

*水を求める祈りのソクラーンに対してローイ・カソ(灯籠)は水の恵みへの感謝の祭で陰暦12月(新暦10月末~11月初)の満月の夜、雨季が終わる時に行われる。農民たちは翌年の3月末までの農閑期に入る。43p

*タイ人は一方で「キ-キョット」(怠け者)ということを嫌う気持ちをもっています。48p

*現在のタイでは、婦人は業深きものとして僧侶(ブ-ラ)は常に距離をおいております。僧がたとえ息子であっても婚約者の場合でも女性は近づけません。僧及びまとう衣に女性が触れることはタブーです。又、直接に何物かを手渡す事もいけません。男の人を通して渡すか僧のもつ鉢のなかへ落とすのみです。バンコクのバスでよく見受ける光景ですが、後ろの座席は常に僧侶のために明け渡すという慣行になっております。そして僧が座るとその周りには男子がとりまき、女性から隔絶するようにしています。81p

*1862年の秋、イギリス婦人アンナ・レノールズ(28歳の未亡人、2児の母)がシャム宮廷の家庭教師と

- して赴任。5年、王室子女の教育に専念する。91p
- *シャム(シャム)はサンスクリット語で「浅黒い」を意味するが、別に黄金という意味もある。109p
- *1964年に日本の皇太子ご夫妻がタイ国訪問の折、チェンマイ離宮で対族の人々が蛋白質源の食料に不足していることを陛下から聞き及び協力を申し出、最適の淡水魚として50尾のプラー・コン(ナイルの魚)を贈られた。175p
20. 「タイ文化の魅力」 チュラーロンコン大学成人教育センター1989 ア
タイ語版ガイド養成講座テキストを邦訳したもの。歴史・美術・仏教・建築の他観光ガイドに必要な地点案内。各分野毎に日・タイの用語集があり、現地で説明し易くなっている。
21. 「タイ生活事典」山本みどり・酒井美代子・白馬出版¥1650 1990
著者は、'バンコク週刊'発刊者とタイ料理教室主催者。食品の値段や学校の授業料等、タイ生活に必要な情報を掲載。改訂版が欲しい。
22. 「タイ産業立国へのダイナミズム」井上隆一郎・筑摩書房¥2900 1991 ○
著者は、日本貿易振興会(JETRO)主任調査研究員。'87-90年にタイ工業開発調査を実施。タイの工業化の歩みを、政治・経済・社会・文化等様々な局面から捉えている。データ編・民間企業約50社のプロフィールも良くまとまっている。
*デパートやショッピング・センターの増加は、バンコク市民の生活を大きく変えた。人々は、冷房の効いた、雨の心配のないところでのんびりと散歩し、ショッピングやおしゃべりで楽しむことを覚えた。冷房のお陰で、おしゃれの幅が広がり、それがまたショッピングの楽しみも広げた。6-7p
23. 「文化と現代世界—文化人類学の視点から」嵯峨野書院¥1957 1991
文化人類学入門書。文化人類学は、自己を知り、他者を知り、その異同を知る上で必要な分析の枠組みを提示する。本書では文化の概念、社会組織、経済、宗教を検討した上でアジアを舞台にして紹介する。
・タイ：山本春樹 123-142p
24. 「別冊宝島・タイ読本」JICC出版局¥1250 1992 GE561, E36 国
好奇心から自分が知りたいことを自分のために調べた結果生まれたタイ解説本。
*タイ人の管理職が欲しかったら、社内昇進を待つよりも他社からスカウトしてきた方が手取り早いし、リスクも少なく済む。・タイ人とうまく仕事をやっていこうと思ったら、誠意をもって相手を理解しようと努めること。(168p)
*タイ人はカッとしたり、キリキリしたりすることを「ジャイ・ロン(熱い心)」と言って好まない。冷静な心、平成な心の状態を「ジャイ・ゼン(冷たい心)」と称して尊ぶ。(179p)
*バンコクは行政上69の所轄があり、それぞれ警察所(サタ・タムアト)が置かれている。下っ端の警官は担当地区の性風俗店、賭博場から管理費と称して裏金を集める。(大型マッサージパーラーの場合、毎月1-2万バツ)飲食店営業許可証等も賄賂の額に大きく関わってくる。しかし下っ端警官には何の見返りもなく署長クラスに行きわたる。・アメリカFBIに相当するコン・プラブは売春・犯罪・外国人問題・麻薬などを担当、ときたま摘発に乗り出す。警官は出身校によって2つに大別される。ポリス・カゲット(出世コースの100倍の競争率のあるポリス・カゲット・スクール出身者)とポリス(ポリス・プラハート・スクール卒、初任給は半分だが病院は無料、年金付き)。202p
*リゾバ：ビーチボーイに夢中になる日本女性。彼女達にもエイズの危険は平等に来る。224p
25. 「世界の国ぐに大百科 第一巻アジア・オセアニア」浮田典良・大林太良監修
ぎょうせい 1992
・タイ 136-145p
26. 「ビジュアルシリーズ世界再発見 10 東アジア・日本」同朋舎出版¥5000 1992
英独等10か国共同出版によるもの。
・タイ 16-29p
27. 「タイの事典」石井米雄監修・同朋舎¥8500 1993 498p ※
タイに関する情報を集大成しており、タイフリークには欠かせない。巻末に1991年から1992.9月迄に日本で出版されたタイ関係の本がLIST UPされている。
28. 「タイ 開発と民主主義」末廣昭・岩波新書¥580 1993 ○

1950年代末からのタイの変化とダイナミズムを、開発と民主主義を軸にとらえようとしたもの。1993年時点で政治経済社会の分析を最新の情報で整理しており読みやすい。

29. 「タイで考える」今村仁司・青土社¥1800 1993
1986年から1992年迄四回にわたり田辺繁治教授の助けを受けながら訪タイした時の記録。社会哲学の立場からタイ社会を考察している。
* 経済を先導する製造業が十分に発達していないタイの場合、国の経済を支える基幹産業は農業であり、サービス業である。農業の主役は女性達であり、サービス業の主役も女性や子供たちである。44p
* 交通事情は都市の状態を観察するに最適の事例である。60p
* 共存する異なった消費圏が同心円的に拡大しているのが消費都市バンコクである。中心にも周辺にもそれぞれの階層性が見られる。中心圏ーバンコクの消費センターは、デパートとスーパーマーケットである。デパートは高級品を売るところであり、スーパーマーケットは大衆品を売るところとっていい。81p
* 現代のタイ経済の先端を担うひとびとの行動様式にぴったり合う宗教が求められている。それが、サティ・アツクの運動である。この教団は、仏教的ヒューリズムとでもいえる精神で宗教「改革」をやろうとしている。91p
* 中国人街の周辺に行くとインド人の店がある。彼らは大概はインド綿の織物を商っている。田舎へ行くと豆売りはたいていはインド人である。136p
* 寺院の説法は「ジャーカ」を読むことで、多数の僧侶がリレー式に読み上げる。一人が読みおえると、鐘なる。172p
* タイ仏教の民衆生活の中での活力は、一時的に世俗を放棄することをエトス化し、すべての男性民衆を「僧」に似た者にすること、要するに人々に「主」でありうる希望を与え、部分的にもせよ現実に行うことができることにある。177p
30. 「任国情報 (タイ)93 年度版」国際協力事業団編集発行 1993 協
31. 「アジア動向年報 1993」アジア経済研究所¥10300 1993
・タイ 249-280p
'92年の動向、重要日誌、他政府機構図、閣僚名簿及び主要統計掲載。
32. 「タイの人々」三浦清彦・海外職業訓練協会 1993 GE561, E52 国
著者はタイ・トヨタ自動車社長、日本人会会長等を歴任。グローバル人づくりテキストブックでわかりやすく丁寧に書いている。
* タイの人々と付き合う時の心得 12 項 4-7p
① 国家、王室、宗教に対して常に敬意を払うこと。
② 仏教のきまりや習慣を尊重する。
③ 冠婚葬祭には気を配り、積極的に参加する。
④ 礼儀正しくふるまい、挨拶をキチンとする。
⑤ 他人の頭を撫でたり、頭部に触れないこと。
⑥ 人前で、男性が女性の身体に触れるのは慎むこと。
⑦ 裸体を見せないようにする。
⑧ 相手の誇りを傷つけないように。
⑨ 興奮して、大声をあげたり、粗野な振る舞いをしないように。
⑩ 興奮したり、熱狂したり、激昂している人々とは距離を置く。
⑪ 身なりを整え、清潔を保つ。
⑫ 自分の身のまわりは、自分で護るよう心掛ける。
33. 「タイ人のライフスタイル」富岡悠時・サイマル出版会¥2100 1994 289p ○
大学生の価値観レポート。百日を越えるインタビューをもとに 125 部のアンケートを回収、以下の項目で分析している。家庭環境、大学生活、宗教観、趣味と余暇、売買春とセックス、結婚観、女性観 政治意識、職業観、マイホームづくり、タイ人の日本観タイから見た世界、感想と意見。
* 大学院卒業者は特別優遇される（全国で2万人）。修士号保持者の初任給は、学士より15%以上高い。52p
* タイの大企業や官庁に勤務する者は、3ヶ月の出家有給休暇を取る権利を与えられている。63p
* タイには女子大生を性的対象として見ることを罪悪視する風潮がある。98p
* タイ社会は意外にアメリカナイズされている。サラリーマンが会社の自分の机に妻子の写真を仰々しく飾り立てるのもその一つだ。写真を置かない者は家族に対する愛情

を疑われることがある。写真一枚が家族愛の有無を決めてしまうのだ。実体を見ようとせず外見だけを整えておけばそれでいいとする、タイ的な形式主義が感じられる。

117p

*英字新聞の大卒者を対象にした求人広告を見ていると、珍妙な現象に気がつく。募集する人材のポストと資格(年齢・学歴・専攻分野・職歴)ははっきり書いてあるのにほとんどの場合、給与額が明示されていない。日本語の高給優遇にあたる attractive salary ですませている。外から見た体裁(地位)が第一なのである。163p

*タイ文化を尊重し、相手の面子に気を配りながらも、問題が生じたときは、そのたびごとにきちんと解決をつける、毅然とした姿勢が重要なのだ。タイ人従業員にわかりやすい、公正で明瞭な人事政策を、もっと積極的に採用したほうがいい。165p

34. 「タイ・こだわり生活図鑑」山田均トラベルジャーナル¥1500 1994

アジアカルチャーガイド①

名所旧跡 50 選、遺跡 36 選、国立公園 25 選、人気ビーチ 25 選、地方の祭り 40 選と
いった情報の他、足でとらえたタイが描かれている。

*タイにはほとんどもなく幼稚な人や、シンから完璧な大人の人や、その両方を兼ね備えた人、つまり都合によっては、平気で幼稚でになれる大人がいる。物質主義者だと思っていれば急に出家してしまったり、出家者が還俗して商売で成功したりする。・・・物事の考え方でも、万事自分の都合のいいように考えていく決まり。考え方の大筋というか、方法が決まっているのなら、頭の善し悪しは別として議論の意味がある。しかし、タイではおのおの勝手に考えていいので、議論は出来ない。ワガママの馬力が物事を決定するのだ。184p

*シアワセの三要素 185p

サヌック：「面白い」という心の動き。楽しく気持ちがいい。

サバーイ：気分がのびのびしていつでもサヌックになれる状態。

ルワイ：金持ちであること。

35. アジア読本「タイ」小野澤正喜編・河出書房新社¥2000 1994 ○

タイについての最新案内書。執筆者がタイ人の他、専門家なので安心して読める。

*学校教育の中の仏教

人生に幸福をもたらす四条(プロム・ヴィハーン・シー)

①メーター(他者への慈愛) ②カルナー(他者が災厄のない状態を願うこと)

③ムティター(他者の幸福を共に喜ぶこと) ④ウベーカー(平静な心の状態を保つこと)

人生を破壊に導く四条(アバイヤ・ムック・シー)

①淫乱な生活をおくこと ②酒や麻薬におぼれること

③賭事をする事 ④悪友とまじわること 56p

*マープンクローン

若者文化の中心、サイアムスクウェアから通り一つ隔ててすぐ西に立地する。ここは毎日が市で、建物中央の大きな吹き抜けを巡る回廊にぎっしり並ぶ数えられないほどの店と雑踏によって建物の大きな空間はエネルギーで充満している。五階が手軽な食堂街になっているのも市の伝統に従う。即ち建物の内と外は全く異なる世界でありマープンクローンで人々は非日常の世界を経験する。68p

*メーチー(女性の修行者、剃髪して白い衣をまとっている)

八戒を守る。①殺生 ②盗み ③虚言 ④邪淫 ⑤定時間以外の食事 ⑥酒、麻薬等の服用 ⑦歌舞音曲鑑賞 ⑧大きく高い寝台の使用 86p

*パター独立運動：1992. 8. 13 バンコク市の駅構内での爆発により民間人3人が死亡し、70人以上が重軽傷を負う事件はパター統一自由機構(PURO)の分離独立運動による。172p

*パター王国の興亡：14世紀後半、古都パターを中心に半島北東岸の都市国家群がまとまって成立。15世紀中頃、パター王はアラビア商人からイスラムを受容してスランを称する。1902年、パター王制は廃止。1906年、タイ中央官吏が直接統治する州県制度が南部7県を統合したパター州の形で確立した。176-7p

*チュラーロンコーン大学：SOTUSが校友を結びつける原則。

SENIORITY 年長者を敬う

ORDER 秩序に対する感覚をもつ

TRADITION 伝統を重んずる

UNITY 校友相互の強固な団結をかためる

SPIRIT 思いやりをもったチュラーロンコーン精神を培う 239p

*チャオポー：地方で経済成長の波に乗り、合法的に築き上げた強大な経済力を基盤に、ある一定に地域において政治的影響力を有する個人のこと。245p

36. 「アジア動向年報 1994 年版」アジア経済研究所¥10500 1994
 ・タイ 257-290p
 1993 年の動向及び主要統計掲載
37. 「アジア動向年報 1995 年版」アジア経済研究所¥6000 1995
 ・タイ：東茂樹 267-290p
 '94 年のタイー手間取る民主憲法の制定、重要日誌、参考資料、主要統計
38. 「アジアの熱い風」徳納志信・総合法令¥1600 1995
 著者はタイ華僑財閥の合弁会社キタ・リサーチ&コンサルティングの代表取締役。視線を低くして眺めたアジアの「匂い」レポート。
 ＊結論から言えば、日本人が日本人であるかぎり、アジア諸国で素直に歓迎されるなどと思わない方がいい。所詮「カネの切れ目が縁の切れ目」と心得た方がいい。なおかつ同じアジア人として相手の感情を十分理解し、あくまでも謙虚に、しかし同時に毅然とした態度を崩さず、言うべきことははっきり主張すべきであろう。何よりも相手の国や民族・民衆にとって、我々日本人が必要とされる民族であり続けることが肝要である。その限りにおいてのみ日本人はアジアで受け入れられ続けるのではあるまいか。35-6p
 ・したたかなタイ 76-136p
39. 「タイ文化ハンドブック」松下正弘編・勁草書房¥1600 1995
 タイ文化研究会の 15 周年を記念してタイ通の会員が書き上げたもの。駐日タイ公使へのインタビューの他、タイ文化について衣服、食文化、住居、交通、教育、宗教、芸術スポーツの面から紹介。日・泰文化交流について現在に至る迄解説している。
40. 「もっと知りたいタイ・第 2 版」綾部恒雄・石井米雄編・弘文堂¥2300 1995
 第 1 版から 13 年、内容も一新している。
 歴史的背景（石井米雄） 風土と地理（北原淳） 民族と言語（綾部恒雄・裕子）
 宗教と世界観（小野沢正喜） 芸術と文学（レヌカー・ムシカシントン、岩城雄次郎）
 社会と教育（村田翼夫他） 政治と経済（赤木功、末廣昭） 日本との交流（吉川利治）
 ＊民衆詩人ストン・プーの才能はアマ 2 世によって育てられた。彼による「プラ・アパ イー物語」はタイの最初の小説で笛の名手である王子を主人公にした恋と冒険の遍歴物語。167-8p
 ＊ナヒーヤット・プーミットといった詩人は鋭い感性のアンテナで時代の病弊をいち早く感じ取り、民衆の立場で表現し、読者の心を動かした。176p
 ＊仏教の中核から排除されたタイ女性は、仏教的価値観にしばられたタイの男性が農民や官吏・軍人になることを好んだのに対して、商業へ進出し、華人と並んでタイ社会の経済活動を支えてきた。1995 年 1 月 4 日、タイの国会は男女平等の新規定を盛り込んだ憲法改正案を可決している。198p
41. 「長期滞在者のための最新情報 55・タイ」久保木裕一郎・高橋行雄・三修社¥1800 1995
 タイでの生活に必要な情報を集めていてガイドブックに物足りない人向け。
 ＊工業団地：1972 年バンコク近郊バーンチャイに誕生して以来 44 箇所。
 北部ランプーン工業団地：86 社(1994.4 現在)の内 28 社が日系。日本人は約 300 人。
 戸田泰之(エルテック・リミテッド K.K.) 「学歴のある女性スタッフはプライドが高く、意見が食い違ったりするとかなり強く主張することがある」39p
 ＊ワーキング・パーミット(WP)：資本金の払込額が 200 万バーツしかない会社の場合は、単純計算では 1 人しか WP を取得することはできない。132p
 ＊会社設立の流れ：弁護士の名義証明、法人名(商号)の登録、設立趣意書(定款)の登記、発起人総会、最終登記。代行業者・小林株式会社(02-235-6517)166p
 ＊日本人の男性が婚姻する際の流れ：必要な書類(戸籍謄本、住民票、所得証明書、在職証明書、結婚資格宣言書、パスポート)をタイ国日本大使館に出頭、「婚姻要件具備証明書」が発行され、結婚資格宣言書に署名証明してもらい、2 通をタイ国外務省の認定課で認定を受けると婚姻が成立する。172p
42. 「発展の岐路に立つタイ」プラサート・ヤムクリンフング 国際書院¥3262 1995
 変動する社会構造、農村社会：現状・問題点および開発
 日本とタイの農村開発の比較、地域開発：タイの経験
 軍隊-政党間の権力闘争と民主主義の制度化

官僚政治から不安定な民主主義へ：タイにおける政治と政府－実業界の関係
近代化の諸問題、仏教の復活と近代化、NIES化に向けての変化：その傾向と問題点

43. 「微笑みの国タイ」五十嵐勉編・アジア文化社¥2800 1995
「東南アジア通信」20号記念号タイ総集版。編者は、1984年に小説取材のため渡タイしてから7年、東南アジアを訪問。その後、季刊誌「東南アジア通信」を発行してきたが、小説発表のため最終号となる。水の風土、王室と政治、仏教、東北タイ、華僑、学校、山岳民族、南タイについて解説している。
44. 「最新アジア・オセアニア各国要覧」外務省監修・東京書籍¥3200 1995
外務省アジア局、欧亜局、中近東アフリカ局の関連課が取りまとめたもの。
・タイ 78-83p
45. 「取材報告・タイのかたち」山田道隆・勁草書房¥2800 1996
副題：外信記者が見た融和社会
著者は1988年から3年と9ヵ月共同通信社タイ支局長。1992年5月の流血事件から、民主化への厳しい道を論じ、高度成長の影をバンコクを中心に報告する。後半はタイ語、美女、グルメに触れている。
*91年12月、王宮前広場の5万人集会をはじめ、スツガ首相退陣を求めた旧国会前広場での集会(参加者約4万人)には、携帯電話を手にした元学生活動家らが忙しげに関係者や地方の仲間達と連絡を取り合う姿が多く見受けられた。16p
*ラガワン・ウォン：女性キャスター、地元パヤオ県から民主党立候補、票買い取りの対立候補に勝利。
*ミヤウ・ウィライター：1992年9月チュアン政権になってから閣僚を辞めPDA(人口問題と地域開発協会)の活動に専念している。112p
46. 「転機に立つタイ」新津晃一、秦辰也編・風響社¥2575 1997
1994年からバンコクで3回にわたり「転機の真っ只中にあるタイ」と題して開催されたシンポジウムの記録。全体として、日・タイ関係、タイの社会・経済変化、社会・環境問題、農村問題と農民運動といったテーマが論じられている。
*日本の映像では、IBC衛星放送で月一金曜にNHK7時のNEWSが同時放映されており、タイの映像は、NHK衛星第一でCHNL9のNEWSを10分に短縮して午前0時や1時過ぎに放映されている。46p
*ワット・タマガイ：タマガイ(法身)指揮の瞑想に重点をおいて修行を行なう寺で、1970年にパトタンニ-県にセンターを開設、1978年に寺院登録される。教祖はモンコン・テープニム僧といわれる。絶対的な真理を極めるといふこの瞑想は、自分の中に光の玉や仏陀の姿を観るといふものであり、都市住民層に信仰者が多い。94p
*タイの官僚制は100年以上も殆どシステムが変らずに残っていて、200万人の役人の給料で国家予算の6割以上使われ、更に公社従業員約30万人も能率の割りに非常に高い給料を払っている。152p
*プラーウェット・ワシ：1931年カンチャナブリ農家出身、米コラト大医学部博士課程卒、ロトソン大で遺伝子学を学ぶ。国家教育委員、マクササイ賞受賞。208p
47. 「タイの常識・非常識」水野潤・愛里出版240BAHT 1997
156ページの小冊子。食べ物、習慣・風習、生活、緊急、言葉、交通等に関するのタイ常識をコンパクトに案内している。
48. カルチャーショック3「タイ人」ロバート・ケーパー、ナンサハ・ケーパー 河出書房新社¥1800 1997 ○
原書は1980年初版以来改定版を出しており、本書は1996年のものを翻訳、他に日本人向けに石山永一郎、下川正晴氏がコラムを随所に書いている。文化人類学者の視点から面白い。
*あなたの前に誰も座っていなくても、机の上に足を上げては絶対にいけない。お寺の中で壁にもたれて両足を投げ出すのも厳禁。頭には触れるべからず。足で人をまたがない。34-35p
*タイの階級制度を確立したのはアユタヤ王朝第9代の通称トリロク王。平和な王国の基礎を築くために、ヒンズー教と儒教の思想を混交し、タイ的解釈を加えてサケティナー制度(位階田制)を確立した。100p
*ステータスを決めるもの：タイ人の評価は外見、年齢、職業、地位、学歴、家柄、社会的人脈の順。タイで名字をつけることにしたのは1920年代、この時、同じ名字が重ならないようにした。110p~
*タイでの事業遂行には敏腕なコンプラトール(仲介者)が必要。141p

- *産毛落としの儀式(タムクワン・ドゥワン)：誕生して一か月無事に過ぎると両親は親類縁者や友人を呼んでお祝いの儀式を開き、赤ん坊の産毛を落とす。179p
 - *呼び名を使うのは、精霊の注意をひくのを避けようという魂胆。生後30日以内に本名で呼ぶと、精霊たちがその子に関心をもち、その結果不幸が訪れる。181p
 - *葬式(ソカーン・ソップ)は転生の旅の出発でもあり最も重要な儀式。死後、遺体は家族の手で湯と水で浄められ、果物の皮や香草、木の葉の汁から作られた香料を塗られ、新しい着物を着せられて床に寝かされる。親戚や友人は死者の右手に水を注ぎ、肉体を離れていく魂の平安を祈る。..お棺の頭のところに死者の魂が西の方向を見失わないように、ツツクを灯し続けてやる。その側に故人の布団や毛布、食器、食べ物や着物など生前の持ち物があの世でも使えるように置かれる。196-7p
49. 「タイのこころ」河部利夫・勁草書房¥2600+税 1997 241p
「タイ国情報」に連載されたもので、キーワードを取り出して異文化理解のあり方を提示している。華僑や日本との関わりを詳述している。
*プリン・マーライ(花の首飾り)に使う白い小粒の花はドーク・マリ、ジャスミンの香りがする。通年の花、野の花であり、祭りや寺詣での供え物や女性の髪飾りに使われる。9-10p
*チュロンコン大学の色はチュロンコン大王が生まれた火曜日の色ピンク。28-9p
*タイ族の祖先・古代シャム人はインドシ半島北部と雲南南部の平野地帯。64p
*タムベント・ハリス(1804-78)は1856年に日米修好通商条約を締結させている一方、1855年タイに対する大統領特使として通商条約締結の交渉をしている。日記には「総理大臣は言った。自分達はジョン・ボリング卿と条約を結んだが、それは自分達がイギリス人を好んだからではなく、イギリス人を恐れたからであった。..」(1856. 5. 21)232p
50. 「タイ現代情報事典」現代タイ事情研究会・ぬみ文社¥2000+税 1997
一般事項、キーワード、資料に大別してタイ日辞典等を参考にしながら解説。
*得度式(ウップ・ソップ)：出家をする時の儀式。一般にバンサーと呼ばれる安居の期間中に行われる。得度を受けるにはヨムという後見人が必要。46p
*コン(仮面劇)：古典仮面舞踊でタイの「能」と言える。物語の主題材はラマキエン物語。66p
*サイソ(聖糸)：糸のおまじない。新築の祝儀では、仏像を東か北方に安置、糸端を仏像に巻きつけ外に伸ばして家を一周させ、もどってきた糸を聖水の入った鉢に三重に巻きつける。更に仏像の前で呪文を読誦している僧侶の手に糸を挟む。こうすれば糸に巻かれたものは霊力でおおわれるとかがえられている。72p
*チョファー(棟飾り)：天の花の意味。寺院等の建物の棟端に対で取り据えられる。魔除けとして神鳥の頭の形をしている。108p
51. 「アジア動向年報 1998年版」アジア経済研究所¥6300+税 1998
・タイ：河森正人 281-306p
1997年9月、新憲法制定により下院議員資格が大卒以上、閣僚ポスト数(48→35人以下)上院議員を削減したり、国民5万人以上の署名により法案審議を要求できるようになった。
52. 「事典・タイで暮らす」小林豊、江口久雄・中央経済社¥1470 1998
タイにしっかり根を下ろして生活できるよう、歴史、社会からビジネス、生活、観光までをタイ長期在住者が詳しく解説。
*タイ人の家には必ず敷地の片隅に土地神を祭った祠(プラム・チャティ)が建っています。人間が住みつく以前からいる土地神に敬意を表し守ってもらうためです。30p
*ウボンチャティ県のワット・パー(森林寺)ではアチャン・チャー師の指導を受けた岩手県出身カエサー師、京大医学部から転身したチャナード師がいる。31p
53. 「教科書が教えない東南アジア タイ・マレーシア・インドネシア編」藤岡信勝編・扶桑社¥1429+税 1999
平成10年「東南アジア授業づくりの旅」で取材したものをまとめたもの。反日、自虐に偏向する本に対抗する姿勢で自由主義史観研究会スタッフが書いている。
・タイ編 11-68P
*タイ族は4500~5000年前、現在の四川省に生まれたと言われている。..スコタイとは「幸福なタイ」という意味だと言われている。21p 赤野達哉
*バンコクのバンは、水辺の村、コクとは野生のスズメのこと。..1785年に1万人のカボジア人捕虜を使って掘られたのがバンテンプー運河、その外側のパトゥン・クルカム運河は中国人労働者を使って掘られた。33p 渡辺龍二
*タイの軍隊：兵力約26万、防衛予算33億ドル、GDPの2.6%(1994年)徴兵は籤で決められ、

その期間は2年。実質的な軍の最高実力者は陸軍司令官。第一次世界大戦では自動車輸送部隊と飛行機のパイロット1200名をヨーロッパに派遣。これをきっかけに不平等条約の改正に成功。戦勝記念塔は1941年、仏印軍と戦って旧領を回復したことを記念したもので、国道1号の起点となっている。37-8p 渡辺龍二

54. 「タイ・インサイドレポート」 フラウイト・チャック・めこん ¥1800+税 2000
ネーション紙記者による連載をまとめたもの。農民、労働者、スラムの住民、学生、キャリアウーマン、住民運動のリーダー、政治家など様々な階層のタイ人の姿を通じて、タイ社会が抱える問題や、それを乗り越え彼らがどこへ向かうのかを浮き彫りにしている。
* シェット県の年間の平均収入は11460バーツで国内で最も貧しい。119p
55. 「タイ現代カルチャー情報事典」 中村真弥子、神田信之ほか・ゑみ文社 ¥1500 2000
現代の生活情報や仏教、人物、芸能等を紹介している。ホームページ等の資料が役立つ。
* クルバー・スリガイ(1878-1938): ランブーンのプロラート・ハリポンチャイ寺、チェンマイのプラ・シング寺等107を修復。トイステープの山麓から寺院の階段まで道路を造った。161-2p
* 秋元加代子: タイ舞踊の日本人第一人者。日本に来ていたプサティ女史にタイ舞踊を師事。1986年、日タイ芸術協会を設立、タイ舞踊の日本への普及と交流活動を続ける。177p
56. 「タイ・旅の雑学ノート」 えもと正記・ダイヤモンド社 ¥1600+税 2000
BTS (バンコク高架鉄道) の沿線案内とチェンマイ・エクスプレスの沿線案内。20年間に蓄積した蘊蓄をわかりやすく書いている。結婚事情、コンドミニアム、ムエタイ、ブラ・クルアン、象保護センター、高原茶等々。
* BTS (Bangkok Mass Transit System) 1999. 12. 5 開業、車両はシーメンス社、デザインはポルジェ。6p
* 僧侶の中でも20歳以上の成人男子で227の戒めを守っている者を「ブラ」、20歳未満で10戒のみを守る者を「ネン」と呼ぶ。ブラになるのは父親のボン(功德)を、ネンになるのは母親のボンを増す行為とされている。24p
* ブラ・クルアンは各地のお寺で作られるが、製作の過程で僧侶が呪文を唱えて入魂の儀式を行う。..中には高僧の遺骨を粉にして混ぜ込んで作られたブラ・クルアンもあるらしく、これは当然高値を呼ぶ。134-5p
57. 「切手に見るタイ」 安藤浩・文芸社 ¥1300+税 2001
著者は昭和16年タイに外務省留学生として行ってから長らくタイ大使館に務め、退職後もタイ語指導やNGOに協力している。切手収集が嵩じて、切手に出ている紋章、王室、英雄、仏陀、寺院、蓮、年中行事、文学、架空動物、鶏、犬、猫、演劇、楽器、スポーツ、遊戯、果物について解説している。切手からタイがわかる奇書。
58. 「行ってはいけないタイ」 岡崎大五ほか・竹内書店新社 ¥1500+税 2001
タイの旅を「買う」「吸う」「信じる」「動く」の面から問題点を取りあげている。実際に起きたトラブルを紹介しているので面白い。
59. 「現代アジア最新事情」 吉田康彦編著・大阪経済法科大学出版部 ¥2600 2002
「現代アジア論」講義のテキスト用に、まとめている。ジャーナリストが執筆しているのでわかりやすい。各国と日本との関係にも触れている。
・タイ: 柴田寛二 157-172p
60. 「タイ雑学王情報館」 高橋康敏・ゑみ社 ¥1400 2002
著者は東京外語大タイ語専攻後、丸紅に入社、タイに15年駐在していた。日本タイ協会の機関誌「タイ国情報」に連載したもので、歴史風俗習慣から健康食品、花、植物、映画に至るまで蘊蓄をかたまわけている。
61. 「タイを知るための60章」 綾部恒雄、林行夫編著・明石書店 ¥2000+税 2003
専門家43人が夫々の分野からタイを切り取り、タイ像を浮き彫りにしている。参考文献も掲げてあり、厚みを感じる。
* 1789年、ラマ1世のバタ遠征から大砲を戦利品として持ち帰り、国防省の前庭に今も飾られている。..シャムはバタを7つに分割統治してムスリムの不満を押さえ込み、反乱のたびに捕虜になった人々は首都に送られ、その子孫がバンソクやアユタヤ周辺に住んでいる。74p
* プッタート比丘(1906-1993)は1932年、郷里チャイヤーの森にあった廃寺をアーン・モーク(涅槃園)と名づけパリ語経典を読み、ブツガが行ったウパッサナ修行を試み、苦滅の達成に挑む。319p

62. 「金なし、コネなし、タイ暮らし」 藤井伸二・イカロス出版 ¥1600+税 2005
タイで長期滞在や生活したい人へのガイドブック。最新情報やトラブル対策を伝授。
63. 「タイ国・近現代の経済と政治」 パーソック・ポーンパイト、クリス・ペーカ-刀水書房 2006
タイ知識人とイギリス研究者夫妻の共著。過去 150 年の都市と農村間の政治・経済関係を解き明かす。
64. 「現代タイ動向 2006-2008」 日本タイ協会編・めこん ¥2500+税 2008
機関誌『タイ情報』記載の論文と講演会の記録を編集したもの。
タクシン政権、新憲法といった政治を中心に経済、社会、歴史を分析、解説している。
・総選挙後のタイの政治社会:「王権」をめぐって 赤木功 146-155p
* プラムア(道義党主)著「王権(プラヤーチャ・アムナート)」に触発されてタクシンの側近だったソティ氏(「フチャットカーン」紙創始者)が反タクシン運動に立ち上がる。 148p
* 1932. 12. 10「シム王国憲法」制定。今でも憲法を国王が下賜する形になっている。 150p
* 国王の法的立場:元首、神聖な地位、仏教徒、仏教の擁護者、国軍の総師。法的権限:枢密院顧問官の任命権、憲法修正案・法律案に対する不同意権ないしは差し戻し権。 151p
* 慣習法における王権:セータイット・ポーンペン(足を知る経済)1973. 10 政変時サヤ元タマサート学長を首相に任命。 153-4p
65. 「タイ検定」 赤木功監修・めこん ¥2000+税 2010
40テーマを解説することで、タイについての知識が万遍なく身につく。
66. 「タイのしきたり」 中島マリン・めこん ¥2100 2012
タイの習慣、マナー、冠婚葬祭、祝祭日などタイで暮らすための「常識」を解説している。
67. 「ASEAN の中心国!タイのことがマンガで3時間でわかる本」 朝日ビジネスソリューション(タイランド) 岩倉弘貴・明日香出版社 ¥1600+税 2013
ビジネスを始める際の手続き、税務などや、失敗やトラブルケースを紹介している。
* 2009年、新型自動車の奨励策を打ち出したので部品の現地調達化が進む。 48p
* 外国人(資本の半分以上を外国人もしくは外国籍企業が所有)事業法:タイの国益に関わる軍事・伝統文化・天然資源などの事業や地元企業の競争力が未熟な事業を守るために作られた法律。新聞テレビも入る。 70-1p
* BOI(タイ投資委員会):工業省傘下の投資誘致機関。結果的にタイが潤う度合い、奨励地区により恩典(法人税や輸入関税の減税)が異なる。東京、大坂に事務所あり。 72-3p
* 給与所得控除が少ない一方、税率が高い。所得 100 万バーツ 25%、累進課税。 78p
* 選挙:投票したい候補者の番号欄に×をつける。投票日には禁酒。 32p
68. 「ムエタイの世界」 菱田慶文・めこん ¥2500 2014
ムエタイが近代的なルールで行われるようになった後、ギャンブルの影響によってムエタイの伝統的な「理念」と「技法」、そしてタイ社会における「存在意義」が変容したことを明らかにする。